

10代と本音トーク★性についての出前授業

出前授業の実施についてお願い

私たちは、誰でも来られる子どもの居場所を地域で運営しながら、困難を抱える子どもに対しては個別に学習支援、食事支援等を行って参りました。

2020年春には、小学生たちが中学生、高校生となり、コロナ禍での不安な日々が続く中、その子たちが性についてもしっかりと学ぶ機会の必要性を感じてきました。

そこで、子どもたちと一緒に性について勉強することを決めたのです。

10代を対象に性についての講演活動続ける産婦人科医・遠見才希子さんと出会ったことで、居場所に来ている子どもに留まらず、より広く10代にとって必要と思われる性についての学習の機会を、大人の責任で提供していかなければならないと考えるに至りました。

そして、すべての子どもが性的被害や予定外妊娠の当事者にならないために、自身と相手の性について大切にすること、まずは「性的同意」や避妊の知識等を学べる機会について、できれば中学卒業までに、もしくは高校生活の時期に、広く10代に提供することを目的に事業計画をまとめました。

この事業提案が、藤沢市が募集する「ミライカナル活動サポート事業」において補助対象事業に2021年7月採択されましたので、突然となりますが、この度ご案内をさせていただきます。

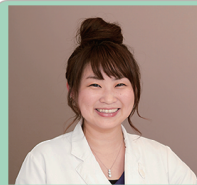
当方で実施します出前授業について、貴校、貴団体におきまして実施できるようにお取り計らいをお願い致します。

まずは、教材内容の確認、授業の進め方などについて裏面を参照頂き、ご説明に伺いますので、ご検討くださいますようよろしくお願い致します。

えんみちゃんと10代のぶっちゃけ話！

♡ ~性について一緒に考えよう♡

2021年
実施済



遠見才希子 えんみきこ さん
産婦人科専門医／筑波大学大学院
社会精神保健学分野博士課程
10代の頃に、もっと気軽に楽しく
真面目に性を考える場が欲し
かったことに気づき、正しい知識
だけでなく、自身や友人の経験
を語り、同じ目線で一緒に考える“中
高生の心に響く性教育”と大学
在学中から講演を始め、若者から
圧倒的な人気を集め、全国700
カ所を超える講演を継続中。
1984年神奈川県生まれ
2児の母親 愛称えんみちゃん

4月18日(日) 9時半～12時 (予定)

会場：Fプレイス（藤沢労働会館）304 会議室

1部：遠見才希子さん講演

2部：えんみちゃんと10代若者でディスカッション

参加対象：10代若者 無料 先着事前申込

※オンライン参加可。保護者等大人は別室でのオンラインによる見学可。

開催主旨： 私たち湘南まぜこぜ計画が運営する寺子屋ハウスに来ていた小学生たちも、いつの間にか中学生や高校生に。そんな子どもたちと、性についてちゃんと勉強しよう！という話になり、遠見さんの講演を聞いてみると、なにより大人自身がしっかり学んでこなかったことに気付かされました。遠見さんが子どもたちの目線で話すように、自身の大切な性について必要な知識が得られる環境を、子どもたちの権利として大人が保障しなければいけないと思います。そのために、遠見さんと子どもたちの対話から、みんなで一緒に性について考えるきっかけとなるようなコンテンツを作成、普及させたいと企画して今回の講演を開催します。4/18当日参加だけでも結構ですが、話を聞いて、一緒にコンテンツ作成に参加する10代も募集します。参加申込と問合せは以下まで。

主催：NPO法人 湘南まぜこぜ計画

メール terakoya@mazekoze.org LINE ID @zpz1017
https://www.mazekoze.org/home 090-5449-1160 (原田)



寺子屋ハウス

若者自ら性に向き合い



講演を聴き、意見交換する中高生ら（18日、本町のFプレイス）

専門家を交えながら10代の若者自身が性や体のことについて考える勉強会が18日、本町のFプレイスで開かれた。子どもたちの居場所づくりなどを開くNPO法人「湘南まぜこぜ計画」が主催。オンライン参加を含めた中高生16人が、性に関する正しい知識を持つ重要性や互いを尊重する大切さについて真剣に向き合った。

中高生ら16人が勉強会

の遠見才希子さん（37）が、ゲーム後に検査液で調べる全てのコップがアルカリ性を示すピンク色に反応し、全員が「性的同意」の重要性などについて説明した。序盤には、水の入ったコップを参加者同士が中身を交換し合うゲームを実施。これは性交と性感染症を例えたもので、一つだけ重曹入りだった。また遠見さんは人の体を子宮に見立てて排卵や受精、着床の仕組みを人の体を子宮に見立てて分かりやすく解説。15歳で中絶を経験した女中学生の実体験などを取り上げ、「安全日がある、中学生が妊娠しないという話は誤り。自分と相手の大切にするため、万が一のとき何が起こるかわからないまま考える機会を立ち止まって考える機会と呼び掛けた。避妊手段としてコンドームのほか、低用量ピルや緊急避妊薬（アフターピル）の有用性も紹介した。

後半はグループに分かれディスカッションを実施。「学校では初体験を済ませることがステータスになりがち。自分がまだだと焦ってしまう」「友人や親とも性についてきちんと話し合う機会が必要」など、活発な意見が交わされた。イベントを企画した一人、高校1年生の羽生姫聖さん（15）は「授業で教わらないことばかりで、ちゃんとお互いの関係性を築くことが大事なのだと思ったり。学校でももっと深掘りしてほしい」と話した。



男性の体を子宮に見立てて妊娠の過程を解説する遠見さん（左）

